難陳三百韻

全

伊地知文庫
文庫20
347

難陳三面記

其序　　蓮三房

誠の金堂なる帽角のあらそひ[illegible]
のそなはる新陳代謝の軍配代
[illegible]の[illegible]藏宇[illegible]山僧との二人士よ
[illegible]仏道を貴[illegible]仲代公論を[illegible]
[illegible]の宣とも意やはれ代
[illegible]天下に不易の仏法を

律もなくもれは山陰生と云れ實活
男ふしもうへ峙伊の嵩よ當よ偏
まれとうろ壊し氣質の行あしから里の
俳諧よ似きしらなりん虚実の造化
をと与れよとりし於いてを制をれとの
蓮二房よりて經よハ思量邪の三字
を題しよまハ取極れ樂ハ誹揩思之
ここ而箪れ写よ駒の取ハ俳なし

さりなく／＼あやまち給ふなきも俳諧ハ
多偏の和よおもうて其人をはなれて
此人に於しても於此人を定て此人ハ
尊くさむ言葉ふい只此風の定くあるハ
おのしくあれはされしく云よむれを
婦人の心をいふなりん筆するま一俳諧
ゐもかきられ於多聴て直に艸行れ云ふ
あり人ハ直よりもあそぶれやきく艸かはさらん

狂やき昔ハと行ならぬの中庸にして
楯の正法をもて楯の意をあらはすべく
此人のしらざる此調やされいひがたき
長者も守る事なく嫡流の家に生まる
人もより武士のゆかり真なる人のみ
あれども心をもちて世の中に行はれし正
も常に何人とかわかられ紀述も堂も
公と試みし所へ吉もあれよりこのさま

物ごと定めなきものとも此軍陣に逃行
ひとはなきものを一前にて仁義の禮をつく
しつる者はかゝる所に行れし一味をもつぱ
をのもし甲冑の営みおればをとおして一番
一世の忠をなし謙譲の家風はまた
なれぬなく道門の風光は浅きまでを
かしこまて鐶鎖れ馬をつかへるも
檳榔毛の紫行の枝猶さらに軍帳

もとのこゝちもせず靜なる軍はに班陳
はべりしに兩川ゝとも吹の樂所なし
つゝしはべる

雜陳詞　兩軍師

陳仙みゝはべり陳前の人を班して曰はく
風雅の道を語り連能の色をわかつて
月雪もあるとしたのゝ言葉をつゝまん
ことを大意とす

宣旨とは和歌を言葉とするなり
天地を動し鬼神をあはれ
の風雅を和らくるは歌なり
これを仮名と哥と雅遊宮の樂
鄙事をなぐさめ猛武の心
歌あるの人体しかるに曰さるよりそれ班ちさま
いろゝのと宣なる事所の目をゆるすとも
ゆるくこれを風雅ならん者ありて連哥
仮借の人をもちゆ歌は和漢ともに
かなくと張る所の心あれ義をつくして歌
の作をあれ刺をあらはしてもとの風
ちさむとあるをもとるべきなり

いとまなく〳〵かの花しき花よの香ばしきよのあるを
まさしとぬぬしをを新なる筋力の積形と
も宮なる直門の門弟のはらはらや
体仁如〳〵曰わたくしに曰わたくしに仁義
ありとおもふ仁義の道を以て仁義
すら見非のそしりを以て称名如
辞をつくろはれを訓諫はのそふよ
ゆゑとおもはれら辞右る直門の門徒を
責つとめ〳〵今日如仁を養ふまさん
おもも之中諦の罪人と世し言行のとひ
あるさらんあるや
体如如〳〵曰先生の言は

人を射るはまはるに誰の的中は弟子の
はといひ宮なみおよんと白馬の遺訓は其
虚の尾のんよりと八其宮は偽なんあると
ゆゑは体仁如〳〵宮の再生を逆ふ
ともあるさまよ二乃傳の門をひらきとち
らは稽ともみさまはいまを之の駒のまを
〳〵詞の社はもひをおらんとふふ
体仁如〳〵曰筆を捨〳〵戦は之
をふくんはれは貴なれ西芸ふ〳〵
詞ふと瓢草〳〵鰻をおさまはちん
おもも仏法は異音ハ〳〵もと
体如如〳〵戦は之をもてら〳〵えとは言

誠かくて事ぬ　ゆるく霜を立人参
北窓も寸艸北庭おさそわれ武縄の
わりお気平々男力おさてちふ佩踏を
採てれもの業あさと出てきさしく出好
の金言なれよしさらん此筆を両川
ま挑も之宮子蓮二代下向ださなちて真
艸北判を使ふさるまを止めなひて百韻の
力法を称して涙に西本子にて手おお句を
あつめて　油墓節出ても紙筆れ
用ることなり

真百韻

雲ままる子子澂やさしし将　稀宇

酒瓦ハあれ子虎申れ杏（かき）　野角

一献の鶴子換使をやりきて　佐鵠

行しれ目ハ智恵子かんさの　禹汶

康も糟も栗も馬もしふ下馬の指　東孜

夜ハきりしめて鐘も持やむ　右乙

相田文庫

木貧まハる明月を誠是
千載集よりの略ハかハ
百姓のおすより稲刈名もとる
ゑるゆゑ和尚ハ嘗せ好ちう
葉減もとけハ質ゑ(切つ)ゑ
以ゆゑ言ゑるも嘆ゑ湯
ゑ言ゑ花帰も会ハちいとゆゑ
白鳥を天ゑ(ゑ)く浜帽子を佐

生可
三位
幾国
由之
左林
風曲
野紫
ち

是ゑ湯より茶鍋のかゑ嘆ちゑ
秋より閑ゑ(ゑ)ゑく春梅
名月を嘆ぬすゑ(ゑ)ゑんゑ
きて通ゑを言ゑる三味線
ゑ(ゑ)さふどゑゑと羽織を重ね生
ゑ(ゑ)ゑ殿やゑ(ゑ)ゑ猫のゑ(ゑ)さよ
短冊ゑ作ゑ(ゑ)ゑ狂言もひさう
茶摘ゑ笠ゑ(ゑ)ゑ続ちゑ(ゑ)ゑ

鶴
洗
孫
乙
百
徒
国

蝶は羽をおさへよ屋は瞬さ　之
簾の繪さへ高ハ鄰ちり　林
精進よ深月の盞青丸ひえ　曲
内儀ハ紙へおむてまとし　棠
寢よしの中仕さ野性を行てゐる　当
ゆゝぬ二階は廣ゐさ　角
濃ーさも濃ー濃さもみ高ー　鶴
あいゝおとゝ所へ歩　法

雲の高ゐ月えしはきぬ鶯や　攻
雪ゆさひし山茶花を折　し
鳥帽子ゆゐ野ま癖つきて　可
何時ゆさそと擬唐鳴ろ　種
角取よハ樣を泡もは苔ゆ　國
拾ちこゆめちまへゆよし　之
泥十二の酒ゐそひも秋をる　林
蒙首よほめ京の志司代　曲

庚申にて中堂に詣てあし
駕籠にのりつゝ
たゞ人の本殿の見廻するさま
餅ふるまひてくるまにのる
四和も本願にあるお雲用
仮てハ人あれハ糞ね
清掌と窓に光りのこし
箱根ゆくるまもれと涙

紫
寺
角
鶏
洗
政
し
ゝ

をつて手拭ふ恵を見て切
くき名を流せて芳川
おもふ子を張せらるゝ月も望
二は負ま暦ハ
三
春所に出ほとゝきす
猫箱一ぱ出てくゝ
居ずまひ人まぶを
あれ模の伯父も来れて

紅
国
之
林
曲
紫
寺
角

弥とゝふ字はよあめ伝ふ物はは
節遠橋よりおくるゝ御米
知よりハ夕飯青よりさうろく
菜漬煮し毋よりおくる
所汁焼て浅漬を解ひけ
姫よりの角豆の十八枚茶
茗いせより〳〵ひんつるを
市の忘はな掃除そ豆

知
洗
孫
乙
可
徑
岡
之

用茶所さゝて寝ふ景ちの用
孫より麿むし椿の四つ割
さゝ〳〵さゝ〳〵ひり場一むく菊の葉
繕理より多とる築地ちよ
麿ろやねたこゝ三把煎ゝ
人の合点はけりぬ ゑ傳
蛇ゝ舞ちさやゝ郡の男より
屋奇ちゝより杖を見ゝ

本
曲
常
古
角
鶏
浅
政

日本より南胡四百八十寺
赤飯をまりおどす軍法
空まハた蒲鉾ににごり酒
外の揚魚のそてまね敵
猿れまもおよハすて月の卑猥門
晴気ま抜ハいらぬ湯の山
金持ち贈の足見ハ笑ひ候く
足にそて近くれて高のふ　獣吉

乙　可　徑　図　之　林　曲　堂

此し入て太黒春れ拍子ぬけ
源りくしつれ武士の中间
流ちまハ喰れてありぬ百の錦
骨をてなハかし傘とろまる
韓女の居る所まハやうひ露代の奥
風ま吹せうしれよんな二一物
亀色まさしきぬ菖蒲をとまさり
持れあちしハ名も野郎し

字　角　龍　従　跋　乙　可　徑

京の竜をさみの舞うと念を入
色司の筆もくるしい艶
食沢よ史情れ倫もなて心し
又地のくしとおくく隆
夕月れあるよ和れる言を仰
仕室りくれ秋の色る
秋見を市園のおんて筆れし
れか下よさとおい藤四

図之朱曲常ち徳紙

裏筆よ色ても徒なあるて
情ありへ西月もなし
正月色ゆ春りうれて雪るし
廣ひ海しよ舟を一敵
高士れ嗅嗜よハ似て茶るる
大於雑カあ梅よ 蔓

沈政し可象象

真體

芭蕉翁

古池や蛙とびこむ水の音

丈艸

れはうぬちうて深み蛙哉

横子

梅ゑ待ちをかうかれ

小松

大空やさくらの雲はなの色

桜秋

ちるのよ名残ものうき哉

藤九

ふるあめにて寢ぶりて朧月哉

巴弓

ゆきまれやの柳ぬれおれる

紫仙

蕉月堂紙白奥ノ名

ふるひたる蓑をほとゝぎす山ふかく　横字

里の名を落しぬるやさゝ狩　信鴨

能因の宵の月ゝ　やなる枝　能因　寒耳

嗚ー何て車を意なる　能の声　奥門　蘆陽

むらさきの雪を徐ろに仏也　イヒ　乙由

湖良や夢ハ世ふかくれ人こゝろ　ちはる　寧地

ふさはや月まを所もあこゝのを　三ノ　大亀

鎌倉の双の出る京あつ三日の月　山儀

出乃芳や家やまなかあつをゆく　三ノ　六之

晴さゝぬ京の高ろや百合の花　京　何狂

浮草を休むかゝゝゆくゝ　三ノ　桃園

ほとゝきす死出の伝やも梅子　横字

地の形乃夢ハ分れはとゝきす　右乙

芳を以て雪ふるまむをふ郭公　女　子代

ほれなうゝその涼しやや蓮の花　三ノ　野航

神雪の山に積日の光
菓の色や花に一字の下くろ
一筋は江河の永きを析野の
ゆくられしこゝろ
宗あるや新しく人生まる田鼠川
まて御やとこをもつて流る羊人
活人の肩格宗一梨子の色
一面は田植にくらしく地獄おろ

花如　イセ
野角
飯的　肩オ
鳥羽　七尾
巴弓
片林
鳥浜
生可

鈴の強にくらして落ちる流れ
流れくるや泥のよろこもる源ア沼
花もまさ移る未だ浦やほとゝぎす
夕を捨てさして行やる雲に峯
針の糸とかゝぬ蛍のさゝやき
まつ雨やまゝをぬきて表紙
孤に立て乃起行あとゝ雨の節
背打を嘆くやうに菓の色

至用
呉竹
歓聴
芦舟
桃蹠
油吹
法印　李仲
虹屋

海とうみれば月やさうなる海の月　素然
見られさうなる草の露　太志
心なつまれ秋はさびしい雲の峯　仝
汐屋の月紀を丁の浦の秋　知角
一塚と伝むや萩を絡繰のある　城塚路及
出て入れば　百日ある　七尾　寒嘯
松風の中なる川や三日月　仝
白ふる雪の一三や　井十三　此路
うらもとの入　しる

為舞や奥法り寺に国原陀　穀雪
出のまや海戸に星もたる　高岡　東白
四星に鐘を庭ありなれを　仝
寄るまるまる人舞を　奥庭　互蔵
何後の藍を磯をなる　仝　雨村
秋炮に青さ人青の深山の秋　仝　太風
寄もむもまもむも青に　仝　倚長
御書の消て寄に一葉うる　仝　薫七
　　寺元　義推

よられめれつゝぬ月わや花の雪　宜令
名月の化粧や あしれ笠ふと白し　湖夕
ぬさりのふをらしろす 梅ゝ家　仝
花木の 鳥や 雪の梅れたれ　赤来
雲のあす草木ま 廣しもふの月　我彌
今 廣ゝ ゝ の てん 弔小 屋 月　平哉
波の月ま 居れ ゝ ゝ ゝ 小屋 月　烏伏
水 あされ あ ゝ れ 風 ふ ゝ ゝ 歌　一荘

新ま 春 新 廣 し 今 湖 の 雪　九春
水 ほれ 月 を ゝ ゝ 川 伯 雅 れ　烏和
ゝ ち ゝ を ま ね て 居 ま ゝ 雅 れ　馬云
新れ ち の 庭 の ゝ ゝ ゝ や 螺 の ま　紫園
一 あ ゝ や 水 ま 雅 ゝ を ち わ ゝ ま　遅流
雲 雅 れ ゝ ゝ て い ち し 郭 云　宵路
ま ゝ て ゝ ま 水 の 京 れ ま ゝ あ ま ん　北天 路青
雅 書 や 袖 ゝ ち う ( ) ま す ま　ゝゝ三 九言

春の雨やとまりかねてハ物うき水鳥
鳧鷖や昨日の世をの物がたり　　全　芝竜
鶯の春やとなりてなきなら　　春中　風曲
雲一ツ家よりとなりの見さかな　　宗木
弾もよ浦〳〵せこのあるじ　　ふるか　松角
文ふるまいてあれゆく白妙舟　　全　月仁
なかるるよりくやくちん嘆の声　　全　星布
よりこわるるやふるのうら　　全　琴舟

ふめるして春の海の湖水の月　　元禄　全　湖舟
声ちくこのもさハ流れ枇杷の花　　以仲
春風の角をたゆめて高ハ　　市風
朝はきて月の夕をあつさかな　　ふるミ　汶上
待ちうけくちるハ桐のもと　　全
ちるとこそ雪を踏てやつるる
鶯のみよのそ〳〵れハせ〳〵秋時　　鶴坪
夕角を強きうるを伸うち　　佳云

春の雪や二はの月ぬすまれし　完水
宝屋に白くしらはら梅のうれ　ふ石
鶯のこれをまねるけや桃のえだ　桃司
卯のひよ美人さまの胡蝶かな　熱田　但彩
唐の世をひろきてあるさしきる　松任　遠石
義貴て酒を人をのるうれ　全
如来を泥よ蓮の田植かな　全
秋風のこまあるあれ尾形ある　柳転
子代

雪ほとけ法をとなえて野菜うれ　御雪
鶴見や鳥ハ月ますのしゃれ　文換　文鳥
あれ一さんまとれてよの粗末　全
十六夜や名残のまるの宮の年　丹後　鳴山
白雲れ未ちまるもちの秋　安石　嵐雪
冷雪の雲のようちの鏡のあり　猿蓑
残保ハ月の弱りや茶屋　遊流
まれ外やうるハ蝶ちと御ゝうる　賀常

[illegible]月をあちらこちらまでや俺月　河東
濃く落くるふるやの勝月　七七　板仲
[illegible]の行[illegible]時の花　板仕　祝青
落月おさてこそ[illegible]ものもれ時　太し
木くまて[illegible]やあのも　小板　乃露
桐の[illegible]や[illegible]遠とておよあり　仝　名市
やりうる中よ地[illegible]竹の花　仝　傳帝
[illegible]れ[illegible]ちをしなしれ　仝　之仲

[illegible]ねて葉摘へ[illegible]　石尊　鷺洲
地のきはひ[illegible]を[illegible]　也考
山[illegible]あるの[illegible]彩樹の郎　風曲
いきはひて無[illegible]や五月時　枝仲
足別[illegible]ましし蟬[illegible]ある　外故
[illegible]月の儀[illegible]ある社[illegible]の郎　倍鎬

仲百韻

山陳

葉物よりゆふ浦ゆふ金平糖　貫戸
あいまおよりまる幕串　嘉然
富貴よハ海つ月雲月をえて
あもしまる秋てもうるる秋　蔦
ちいろとあしセハ見へて　もい楊　歌仁
ゆをつれちゆう海れひかる　平敬

まりすとく放下乳盤持ちるき　武志
歌く相ちよ簾ちゆ　佳云
廊（八ゆ）ちゆ（ゆ）ゆ　沂雪
蓋花ちよハナサとやうく　拝柳
脇ゆ清ゆ　知角
東近ちよ翠乳　清
西乳ちよ乳ちゆ　及
月乳ゆ　然

木ちゆ　蓋
疱気ゆ嘘ちゆ　北
糖（スヲ）ちゆ活て雑子をおちゆ　故
糸買乳ちよ伯母乳ちゆ　志
妻ちよ人乳乳ちゆ　六
彩地ゆ机ゆ◇ちよ三代書　青
定隔ゆ浮世ゆ箱乳作ちゆ　柳
連歌ちハやゆ湯会ゆ村角　角

一夜ふかくさいく釈仁を
俳諧の男色ゆゑに白さよ
ゆきとも十日夷のつゝひやう
俳諧の風もたゝかひて
おれたれて寝相のうつる所を照
庫裏ぬきよ月も白
ちりのはやをを嫁ゝ落ねて
清よ鶏よそ俳諧方便

たゝれ鐘もたれのうちの船
疱おくるふしを敲寄ふ
白雲よ古ゝ念れ名をそ
口れ堊(ほうば)破るよの瓣破ちの
久うるの色も色のさゝ方
こゝ人の柚味噌こゝ
芭蕉葉ハ破れて風れ石柏さよ
帝一杭ぬゝく元ハ

下手なれに飛ぶかもしらひ立し　戴
鷄を並れ出ても堪かね　志
立出る鄙ひしき子　粗衣ぬさを捨て　云
情気乱れ角をこ見せぬ錦字　吉
不振金冀まる嫂の何不子やし　柳
此も浮世子處る金色　象
さんち附もこ川やて楼ハ様の月　儀
旧字こゝも肩ぬ酒業れ社　乃

住吉子幕ハ坊子て灰さし　丝
雨そ打かゝし中障　楚
高も堅きも寝子来れ哉の中　水
櫛も意せぬ流れり庵　哉
三
糧あへれ持給子張りしさ罕　志
篠地を嗅て来る一季居　云
庚申子庵君を得て気ひ漆　吉
皆いさぬ云超を組の浅云　柳

折しも高氏新八沼よりあく
まりの稚児延ハ籠にさうの
行列おれそあちこハ勝よに
はしめ高氏賀屋
九日より菜所よりそうさん始
与四郎所のそうま者
墨舟よりはしめてたれ河内と
語銀より高ねの集家の者

角
儀
及
然
巽
北
武
毛

昨夕新そうしや後の月
銀者はしてく法安より
秋さてより藻屋をもむ四郎
小倉のそ曽ハ馬二郎
此五尼ニそ陽の水ま法をて
階ようそうの水雲ようし法
かけそうの掛ま寄れぬおそ京
後のそうま 桑 銀の

云
吉
柳
角
儀
及
然
巽

[illegible]を女子もうゝ[illegible]嘆義ゝ　水

一枝咲て[illegible]ハ志ゝ[illegible]ゝ　散

目[illegible]を入ゝ[illegible]て[illegible]蘭の香ひ　志

葉葉を[illegible]る侍軍の云

[illegible]を[illegible]ゝ[illegible]合点　[illegible]

[illegible]ひも[illegible]ゝ[illegible]錦[illegible]帰しの泉　柳

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　角

世[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　備

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　致

連をゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　水

一[illegible]の[illegible]を上下[illegible]ゝ[illegible]ゝ　敬

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　志

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　云

[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ　青

郭公の声まちかねぬ袖ぬれる　柳

袖をちかく宮ゐの葉を編　年

澤辺の草の物の結ぶこゝろ　慶

春ゝ雪しの百ゝ川水　乃

北ゝ川家の陰ゝ多　結

文聖ゝ寺ゝ賣ゝ　英

くゝ意しの波橋ゝる眺ゝ　紀

指ゝ折ゝ数ゝれば年　江

浪人を祈明神ゝ　志

乃具なゝ毛ゝ月ゝ精　云

ゝ月ゝと筆ゝ流月八彩ゝ年　匂

門ゝ立ゝ孫ゝ器　柳

俳諧八ゝ人ゝ庵ゝ　青

西白頭ゝ月白ゝ　絵

竹部

玉ぼうきあふむくんや皇系　東菴信

鎌倉をわるせ天の河　乙由

七夕や中の竹をおられけん　山儀

白むくれ裾をとんせてやてれ川　三用　昨義

あさ海やいなの浮橋の音後　小枝

鳴りや はるよ 踊もおすを　寒竜

結てうれた松 煙を取葉を　古法　宗入

野ゝ宮の錦の中やもとゝう馬　発士
梅書や四ゝ刈しられて八重ゝろ　蘭雪
明るすれあり所ゝ四螺貴　野角
見るれあるまゝろ人ゝ柳の眉ノ　素六
うゝれすの梅を揚雲の白ゝ　素想
俳とゝ所ゝ山路よ見もなし　東攻
むゝうゝよす一あるゝや見俳扶　山中一　桃妖
ゝゝゝ花花葉れ百ゝ　東梅

一百姓年貢ゝ米ゝ代ゝ
俳諧のゝ人ゝ宝ゝ
扇哀ゝうあゝ馬上ゝ
梅書れ雁ゝれゝ
蝋のゝゝ
あゝむや元日
ゝゝし旅れ
ゝゝれゝ百や
おゝ代ゝやゝ

俳諧　素然
知水
三ノ　閑如
山陳
桃司
三徑

春

山さくら錦をつくせども物もなし　尚白

きしに立てさくらもあるゆかし　乙由

蓬うつす手をとゞめおくれ田のかり　八十

牡丹をハ古のもとゆえ一さら　也有

臺所一ゆ田ハ世もちまき原　左林

まつしと蚊帳のうちやゆ波枕　角入

浪よりも花咲ところてん　素六

廣新おそ歌やこのくれ蓑　水音

氏仲如山[illegible]早稲掛　平敷

名相撲すゝなをとゝ月者さい　嘉夏

融立や芹もとゝあ田を作ってあり　曾及

寒ひまて松い所ゝ根ゝ　種旨

掘酒をさむいや雪ゝ花ゝ水　九林

鶏年房の蚤きれも淋し枇杷のも　秋水

鶏山ゝ汁ゝ鶏や鶏ゝ　扇之

おさ一発ゝ雪ゝ　此路

夕就の化粧も元亨羅の神　象潟
紅葉を踏て奥の山路に入る　高砂
峰の松さらぬ色なる秋の風　筑紫
笑ふ撫子恋ふる人の繋　橋本
仙人の洗濯や岩に置る露　沂青
木の葉散て足袋を着て子持縞　雨村
菜畑に化るまで拍子木　長崎川　烏石
新蕎麦や馬をはなくや大根引　蕉雨　二醫

野蕨を摘て柳を折られけり　野蕨
通り切れて柳を結ぶ夕べ　野角
猫の恋ふ居てさめぬ猫の恋　風油
恋に文を出さぬ人とて接木かな　高莫
恋ふ人の寝ぬ夜の夢の覚ぬ　几帳
居も地なる法の僧に花見客　幾周
あの馬は桜も見ずくや鈴の音　五葉
居酒屋をまくらに藤を波に寄　象中

永き日成まさる雖延はしつゝ　千代
打ぬるや枕のこゝろてよろむこう　和尚　素白
淋やしつゝ笑ふ仮ふしこ哉　由之
四聚の言さまハ仏ぬ数をうゆ　万声
火を惜て寒しうるる梅舟　桃室
さゝ波や水紙を張の岩　巴楯
細ゆ八雲ふはや土烈ヶ　不動　方笠
ふるあの紙ぬ雨是て打笠脱ぬ　フク井　山流

打ぬるゝ月やうれ百合ぬ　龍仙
鶯鳥の声かすはしの清水うゝ　大ぶる　馬泉
夕白や花の梅川ま水うゝ　伯兎
移を紙ふ新仕原かふうゝ　ナコヤ　松角
吹のあるや秋帰ひ人の感陽宮　こノ　東羽
白やしゝ紙帝ふれ鶯鳥　本吉　半蝶
ふるほゝ波ふ人の屋の仲　桜風
言紙撃移ふてくれる添こゝ　薄客

[illegible]や[illegible]と百合の花　蓮花

[illegible]や　たもとまとて寝ること　子代

[illegible]や　麻かすをしるしるへ　松任　蘭室

三ケ月や　扇一折　ふりけうもの　元キ　多京

三ケ月　かけを見るさよふけ　松任　朱遊

[illegible]の月　撫子

[illegible]の月　野洞

[illegible]　松任　白桃

[illegible]や　松もとの　仝　[illegible]

[illegible]　仝　布巣

[illegible]　仝　胡蝶

[illegible]　仝　義山

[illegible]　仝　志德

[illegible]　歩人　佳村

[illegible]　仝　野力

[illegible]　万鈴　方堅

[illegible]　仝　可肖

芋の葉や野梅の実もかくれ笠　全　衆全
少伝は乾中かの一帝清水哉　全　鷺洲
唐かくしよりの中の松の粽哉　全　舞従
種特乃花もつまるを仰かな　全　香鶏
仰寄よ俳法く鍬の丈人の家　全　二川
芋稚や僧と清て竹　全　上迫
為舞は世寄あるしー鶴年　全　葉酔
鉄寄や野と坊は神ふるひ　全　白堆

横平寄を清ぬ国扇鉄　左柳
ぬるは拍子かるをあるうか　藤子
行梅ゝあるあの法の明る敬　佳什
汗野もてこよ孤の月鉄汗　東孜
草狩や尾上ふる帆を舟　左糸
よ孤ふよ人京鉄寄る鉄横汗　巻耳
孤汗の　ふるあるや明の孤　鉄淳
又鳥の寄や寄ふる孤日南ふ　千貞

なる峰や陽炎れ立れ時　素堂
咲そめしまゝ成るをまつ花の雲　大毫
藻れてやちゝ[illegible]と[illegible]鳥　嵐板
花見る年れ来るなり牡丹　松波
明れねとりや栗の鳴つゝ　杜亮
中入の義経まつ胡蝶れ　舟仙
草一行や小僧の雲よ高くろ　柳翠
入しくしくひまを孤て生霞れ　詩丁

れ雪のひとり残れ蛍や子れ[illegible]　松宇
部屋れ蚤ふ衛や法の蚊　蓋通
[illegible]や安ちちろ[illegible]れ　玄扇
まつのあや嫁な嗜ぬ草も[illegible]　倚晨
ちりぬて風れ木ふれ[illegible]の花　泊楓
櫻蛙それ咲れ[illegible]れ　東夷
れ[illegible]れ扇流れ[illegible]や[illegible]れ　東羽
[illegible]池のさゝひをとゝ[illegible]や撓月　野紫

小松

ものもやとぬくしひかりよ冴ゆる　朴人

松に雪こかりて直るうゝよのあし　ヌノコシ　隆水

むすゝ〳〵と咲もゆう〳〵蒼茫三尺　新潟　慈舟

さんぐれて　こゝろやさのひとこゝろ　ツヽイ　韋吹

夢秋をはるゆけうれ沈たるの　ツヽミヤ　柳士

鶴るの　翁こさうやまぬつき　糧守

水仙や名ハさうふ〳〵ぬたつを　直令

見ぬよ寒さに　ようれ霜風の　白風

冬

冬ものこ年もあ〳〵きやたに葉山　白梅

雪雀こ枝月や大仏の棟瓦　ツヽイ　虚白

蝶るに　旅竈ぬさ寒よ梅ぬ　茅中　梅楠

立つ〳〵ぬ仏の使や裏〳〵れ　仝　嵐板

ぬるの寒のこるこうふや沖の冬　仝　柳鞍

物味ものこのるあやふ〳〵梅のむ　坂隈　甚風

梅う冬や〳〵泊椀おく〳〵元食村　しる

梅ぬ冬を踏〳〵ぬ重ぬ冬ぬこうれ　兄方　東丘

[illegible]　　東宮
[illegible]　　拂関
[illegible]　　紀伊
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　伯耆
[illegible]　　右乙
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　平敦

[illegible]　　林紅
[illegible]　　野鼠
[illegible]　　宇保
[illegible]　　六之
[illegible]　　山蓮
[illegible]　　兎士
[illegible]　　[illegible]
[illegible]　　野角

後序

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまるところ、からまるところ、もとより虚空
はてしなき一ぢ八角は的をふまずとも
らん夏州の軍、はやとんで行の体を
かまへ、もるまじ行ねて行軍のりもあらん
俤かの行ものあれば、ゆゑつゝ
はべ、州ちれ数かの行ものまして行べ
乱丘はべ常の一字ちらんまくりも
はべ、ちもふれをかの俤りとて屋りの

おもきを行体をつくらへ富士垢離の者は
行ぶをみ仏をもとつとうはべ和のやるにな
らんはべ力をよはいをあはんをあらべ語
ちらんを——

宝保のとし菊月日

棟遊閑老人
種字